



扉【とびら】

宇部市立藤山中学校
7 月 号
2020. 7. 27 発行

アスリート達からの『不屈のメッセージ』

校長 海 頭 巖

7月24日（金）はスポーツの日。なぜこの日がスポーツの日なのかは、皆さんも知っているところでしょう。本来ならこの日が2020東京オリンピックの開会式の日であったことも…。

さて、東京オリンピックは一年延期になりましたが、その開催はまだ不安な状況です。しかしオリンピック出場やメダル獲得をめざしている選手たちにとっては立ち止まっていることはできません。先日『NHKスペシャル』で東京オリンピックをめざす若いアスリートたちのシリーズ『TOKYOアスリート～今だからこそ不屈のメッセージSP～』を放送していたので一部を紹介します。

伊藤美誠（卓球） 苦しいときこそ強さを磨く

大変な時期だけど、大変な時期が自分を育ててくれる。こういう状態だからこそ楽しんでいろんなことに臨みたい。1ヶ月2ヶ月でも成長できていると思うので、1年ということはどれだけ成長できるか楽しみ。想像できないくらい楽しみ。一日一日を大切に。試合がいつあってもいいようにやっていくのがモチベーションになっている。自分らしく楽しくいることを心がけてこれからも人生を楽しみたい。

桐生祥秀（陸上短距離） 目標が道を切り開く

できないことを嘆くのではなくできることを探す。僕にはいっぱい目標がある。目標を一個だけ大きいを持つと現実味がない。だから小さい目標も自分の中にいっぱいあって、それがいずれ1個の大きな目標になればいい。大きい目標を1つではなく、小さい目標をたくさんもつ。一個の目標だったら、一個崩れたら目標が全部終わってしまうのが悲しいじゃないですか。だからいっぱい目標はつくっています。それをやったからといって他人からはすごいと言われなくても、でも自分の中で達成感があるというのを目標にしている。自分に今できることは、みんなの目標になること。努力が100%報われるとは思っていない。でも、その努力したことによって違うことに役立つことが絶対にある。このまま陸上選手として自分が終わったとしても、これだけ一つのことに情熱を注げたのだから、これからの将来も数個の情熱を注げることがあると思う。別に東京五輪がどうなろうと変わらないことなので、目標があるのでそこはブレない。

池江璃花子（水泳） また強くなりたい

泳力的には中学生くらい。病気になって一からなっちゃったけど、いざ今戻ってみると、楽しい方が勝ってプレッシャーとか何も感じずに本当に心から楽しんで水泳ができています。もしかしたらもう元には戻れないかもしれないという気持ちもあるけど、このまま中途半端なまま水泳を終わらせたくないという気持ちもすごくあった。やはりパリ五輪に出たいという気持ち、また強くなってみんなよりも速く泳ぎたいという気持ちがすごくあるので、その気持ちが自分の原動力になっている。

彼らの逆境を乗り越えるメッセージから『目標や強い思いをもつこと、ポジティブに考えること、今できることを最大限行動に移すこと』の大切さが伝わってきた。私たちの生活でも、いまだ不自由があります。でも限られた環境だからこそその気づきがあったりもします。当たり前を当たり前と思わず、感謝を忘れず、みんなでこの困難な今を乗り越えていきましょう。短い夏休みですが心と身体の健康に留意し、コロナ対策と熱中症対策をしっかりと、元気で、『気づき・感じて・考えて・行動する』2学期を迎えましょう。